

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

豊かな人間性を育み、自主自立の精神を養うとともに、「確かな知力・たくましい体力と精神力を備え、グローバルな視点で社会に貢献し、持続可能な社会の作り手となる人材」の育成を目指す。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

INA PRIDE(“Be Your Best Self”～様々な挑戦を通じて、自己の経験と視野を広げ、他者との比較ではなく、過去の自分と比較しながら、自己のより高みを目指す～)というモットーを掲げ、次のような人材の育成を図る。

- 学校における様々な活動に主体的に取り組み、自らの学校生活を充実させ、その経験を振り返り内省しながら自己成長につなげることができる
- 理想とする将来の自己を常に設定しながら、自己実現に向けた取り組みを粘り強く行うことができる
- 多様性を尊重し、同時に自己の言動を客観視しながら、課題に対して他者と協力して解決を図ることができる
- 多文化共生社会における一市民としての意識を醸成し、グローバルな視点で未来を創造し、社会に寄与することができる

総合的な探究の時間の学習評価

- 実社会に必要な知識や技能を身に付けるようにする。
- 論理的に考える力を伸ばし、協働作業を通じて、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 他者との関わりの中で解決する力を高める。

生徒の実態

○生活面・学習面ともに真面目で、協調性に富む生徒が多いが、自ら積極的・意欲的に他者に働きかけたり、外部との関りを深めようとしたりする力が不足している。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 個に応じたきめ細やかな指導
- 各生徒の情報と対応の共有
- 外部機関との連携

目指す生徒の姿

- 自立的・継続的に取り組む力がある。
- 視野を広げることに意欲的である。
- 多様性を尊重することができる。
- 社会で生きる力がある。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- 探究の課程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
<何を理解しているか、何ができるか>
(知識及び技能)
- 実社会や実生活と自己の関わりから問いだして見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
<理解していること・できることをどう使うか>
(思考力、判断力、表現力等)
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
<どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか> (学びに向かう力、人間性等)

学習活動、指導方法等

- つくばみらい市の現状と課題について
 - ①調べ学習・資料作成・ディスカッション・発表
 - ②職場体験(夏季休業中に希望者が参加)
 - ③つくばみらい市主催「未来をかたる場ミーティング」(探究発表会と同時開催)
- 在日留学生との浅草街探索
- 市内ボランティア活動
- 「みらい土曜塾」
- 大学見学会(茨城大学見学・道の駅笠間施設見学)
- つくばみらい市役所 講演(つくばみらい市の現状と課題) 発表の準備
 - ①つくばみらい市の施策について興味のある分野を決めて同じ分野同士で班を作り、調べ学習をする。
 - ②スライド作成・発表練習
 - ③校内中間発表
 - ④つくばみらい市役所職員に向けて提案・発表
- 合格体験を聴く会

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- 市役所職員や地域の企業や職業人に協力して頂き、体験学習を充実させる。
- インターンシップや中間発表会などで職業人から意見を頂く。
- 探究PJTチームで、学年で意見を交換したり、学年を超えて共有したりして内容をブラッシュアップしていく。
- タブレット端末をはじめとするICTの活用の充実。
- 事前指導や事後指導では、言語活動の充実を図る。
- 外部講師を招き、他校の例を参考に副教材の使い方の研修を適宜受講し新たな教材に挑戦していく。
- 公開授業などで発表し、保護者に共有する場を設けていく。